

山田学区 社協だより

第 68 号

発行
山田学区
社会福祉協議会

敬老会



今年も敬老の日の九月十九日、山田学区敬老会を市立武道館において開催いたしました。

学区内にお住まいの七十歳以上のお年寄り三百五十三名の方にご参加いただきました。

祝賀式は、橋川草津市長をはじめ、多数のご来賓のご臨席のもと、市民憲章唱和、物故者への黙とうを行い、会長挨拶に続き、ご来賓より御祝の言葉をいただきました。

午後のアトラクションでは、山田幼稚園児のかわいい演技に見入って、大きな声援を送っていました。また、山田小学校の四年生によります群読にて、谷川俊太郎作の「生きる」を演じていただきました。群読と

は、文章や詩を大勢が分担しながら朗読し、迫力や芸術性を高めることをいいます。

また、北山田舞踊教室の日本舞踊を見せていただき、民生委員児童委員の皆さんのハンドベル演奏で皆で合奏しました。また、江州音頭を演じていただきました。出演者の日ごろ鍛えた腕前を披露、ほんとうにありがとうございました。

出席いただきました皆さんは、久しぶりに出会った旧友との語らいなど、和やかなひと時を過ごしていただきました。

この会を催すにあたって、学区内各種団体の皆さんにご協力いただきましたこと、心よりお礼申し上げます。



災害が起こっても 助け合えるつながりづくり

市社協の講演会から

十月十五日、草津市社会福祉協議会が主催して、災害時に備える意味で、「災害が起こっても助け合えるつながりづくり」ということで、講演会が開催されました。

熊本県の西原村社会福祉協議会の坂田誠子さんを迎え、玉川学区社協の小野元嗣さんや、草津市社協の馬場英理さんのボランティア報告がありました。

以下、坂田さんのお話の概要を中心にまとめました。地域での人々のつながりが如何に大切かがよくわかると思います。

四月十四日の九時二十六分震度六弱の前震がありました。びっくりしました。少し落ち着いて社協に駆けつけましたが、茶碗一つ割れることなく、道路も異常なく、特に問題ありません。

せんでした。

次の日、民生委員に一人暮らしのかたの安否確認をお願いしましたが、夕方には全員無事との報告を受けました。

四月十六日、深夜、私は前日の疲れもあり爆睡しているところ、下から突き上げるような感じで起こされ、一瞬ですが、もうダメかなと思いましたが、

真っ暗で、家の中がガチャガチャでやと自分の靴を見つければ、車の中に逃げだしたところでした。



無難所が二か所ありました。これは、同じ地域の方が集まっており、みんな顔が見え互いに支え合って生きていくために、あえて仕切りを付けてないのです。

災害時の七十二時間は非常に大切です。私たちはこの七十二時間をいかにして生き延びるかです。

私たちの地域では、安全な広場に集まってきて、夜が明けるのを待って、男性たちは、まず、トイレを作りました。草を刈って、穴を掘って、コンパネで囲い

を作りました。女性たちは、家のあったものを持って、炊き出しを始めました。高齢者のために椅子のある方は椅子を持って、自分にできる

ことをやって生き延びました。

大切畑（おおぎり畑）地域は、NHKがブーと入っていましたが、全壊の家屋が多く、私の地域に避難してこられました。その方たちと一緒に過ごしたところ

です。大切畑地区では、九名が下敷になられたのですが、消防団員の方が救助した

とのこと。これは、消防団の方が、この家の方は、ここに寝ている。だから、どこをチェンソウで切り開いてというのが分かる訳です。日頃の地域力の素晴らしさを実感したところ。日頃からの繋がりが、関わりがあったからこそ可能なことなのです。社会福祉協議会は、災害時に福祉避難所、災害ボラ



ンティアセンターの開設することが役割となっています。

ボランティアセンターは、被災地からのニーズに対し、対応可能なボランティアを選定し派遣する役割を担います。

地域の区長さんが、ニーズ調査とニーズを取りまとめ、ニーズ票を上げて、ボランティアを依頼される地

域もありました。毎回毎回、区長さんにボランティアセンターに向向いていただき、道案内をして下さいました。とても効率よく運営できたのもその辺かなとおもいます。

避難所に避難されている気になる方々を集めてきて、介護予防の一環として、「気晴らしカフェ」を始めました。これが後に「気晴らしサロン」と名前を変え、誰でも参加できるようにしました。

これが、七月中旬から八月にかけて仮設住宅が出来る、仮設所の集会所に移行しました。名前もと変わりました。これは、誰でも参加することが出来ます。

震災後は、家や家族や仕事、大切な物などを失うつらさがあり、大きく環境が変わらざるを得ない状況に追い込まれます。そんな時こそ、寄り添う人が必要です。さらに人と人との関りや繋がりを持つていくことが重要になってきます。

熊本地震の被災地の被害

の状況、復興を目指す人々の様子から、地域の支え合いの大切さ、日頃からの住民同士の繋がりが、命を救うことに繋がっていることを認識させられました。

なお、山田小学校の皆さんが、熊本地震の義援金を集め、熊本の皆さんに「頑張ってください」という思いのメッセージを書いていただきましたことは、新聞やテレビの放送ですでにご存じだと思います。

今日は、この素晴らしい活動の発案者であります、四年生の、長尾末歩さんと平山わかさんもこの講演会場に来てくれました。

そして、今日の講師を務めていただきました、熊本県西原村の坂田誠子さんに、そのメッセージを、二人から手渡していただきました。

坂田さんも、思わぬハプニングに、大変感激され、二人に感謝されています。

福祉講座

七月二十八日、福祉講座を開催いたしました。

今年、グループ討議によるスキルアップ研修ということで、グループのみならず、協力して情報を共有し話し合いすることの大切さを学びます。

草津市社会福祉協議会の山形真由さんの指導のもと、全体の概要説明から始



まりました。

グループ内の各個人に与えられた情報を持ち寄り、それを互いに口頭で相手に伝えて、皆で共有します。この情報の中には、質問も含まれていますので、それに対する答えを、求めていくことを行う訓練です。

このように、課題解決をする過程において、自分の情報や考えを相手に適切に伝えるとともに、参加者がお互いの話に耳を傾けることを怠りま

すと、決して解決しないことを学びました。

また、高齢者を対象とした配食サービスを知り、その試食を行いました。



各町の福祉委員紹介

平成二十八年度の福祉委員のみなさんです。大変お世話になります。

- 横江 正 (北山田)
- 横江 清隆 (北山田)
- 清水 清之 (五条)
- 杉江 正 (山田)
- 中村美根子 (陽ノ丘団地)
- 徳岡 宏子 (陽ノ丘団地)
- 岸本二十生 (南山田)
- 岸本 明廣 (南山田)
- 久泉 真弓 (不動浜)
- 矢野 和枝 (岡)
- 鵜飼 博 (南山田団地)
- 川辺 勇 (新南浜)
- 大西 昭彦 (御倉)
- 塩谷 至啓 (三ツ池)
- 八田 和美 (三ツ池)
- 山中 秋夫 (新田)
- 山内 久代 (新田)
- 国松 幸男 (出屋敷)
- 木村 純子 (出屋敷)
- 大角 賢史 (出屋敷団地)
- 中村 智史 (出屋敷団地)
- 相澤 隆子 (出屋敷団地)
- 久保 明雄 (木川)



当学区社協は、ワーク
 パートナーきらら北山田の
 皆さんと合同で、やまだふ
 れあい祭りに参加しまし
 た。ワークパートナーきら
 ら北山田の皆さんが、たこ
 焼きを担当いただき、大変
 好評で、早々と売り切れ
 しました。

やまだふれあい祭り



今年は、市社会福祉
 協議会のマスコット
 キャラクターの「ふく
 ちゃん」が来てくれま
 して、子どもたちのみ
 ならず、会場を大いに
 盛り上げてくれました。
 また、社協は例年通
 り共同募金を行いまし
 て、一万三千二十七円
 を、滋賀県共同募金会
 へ納めました。



十月二十八日、永源
 寺温泉八風の湯へ行つ
 てまいりました。お昼
 のイワノの塩焼きをお

お一人暮らしの高齢者の
 かが、一人ぼっちになら
 ないように、友達を作つて
 頂けると嬉しいな、その
 きっかけを提供しましよ
 う、ということを実施して
 いますのが、この旅行
 です。

ひとり暮らし高齢者 バス旅行



いしくいただきました。
 例年、この旅行は好評を
 得ておりまして、バスの定
 員いっぱい、食事や温
 泉、楽しい語らいで、素敵
 な時間を過ごしています。



左の写真は、われわれの
 間では、箒の木と呼んでい
 ましたが、インターネット
 でもほうぎのきで出てきま
 す。夏はきれいな緑、秋に
 は写真のようになります。

山田市民センターのイ
 チヨウの木も少し色づき始
 めたように感じます。この
 木は本当にきれいな黄色に
 なりますね。
 空の青い空に、柿の赤い
 色が映え、見事なコントラ
 ストを醸し出します。

十一月に入りまして、急
 に寒くなってまいりまし
 た。

編集後記